

中斎塾 東京フォーラム
平成 27 年度 第 7 回講話

平成 27 年 7 月 11 日 (土)

於 湯島聖堂

カンボジアの日本語学校

カンボジアに行って来ました。カンボジアに行く理由は 2 つありまして、一つは竹岡さんから、「カンボジアに行くのなら、我々が支援している希望小学校に行ってください」と言われました。竹岡さんからお礼に皆様へ地図をいただきました。竹岡さんのご好意です。

(谷口幹事) 今日は本人が欠席ですので、私が代わりまして代弁いたします。カンボジアの小学校に訪ねていただき、またお土産もいただいたので、有難うございます。

「世界の言葉でありがとう」という地図を預かりましたので、本日皆様に配布いたしました。

もう一つは、山本さんという方がカンボジアで日本語学校を作っていると以前から伺っていましたので、山本日本語小学校に行って来ました。

私は、そこへ行きたいと思い事前に連絡を取りまして、行って参りましたが、日程はちょっと強行軍でした。カンボジアへ行くのには 1 日かかります。日本を朝 8 時ぐらいに出て、夕方 5 時ぐらいにカンボジアに着くという感じです。途中で乗り換えもします。その日はカンボジアに泊まり、翌日に山本日本語学校へ行き、午後は竹岡さんの希望小学校に行き、夜には飛行機に乗って、翌朝には日本に着きました。その翌日には北海道におりました。ということで、先月の休みは 1 日だけでした。さすがに疲れること。段々と疲れが溜まりに溜まって、先週、夕飯をいただく時に目が開かなくなってしまい、目を閉じたままご飯を食べていましたので、これは危険だと思ってホテルをすぐ取りました。翌朝は始発で戻りましたので、一晩寝れば始発に乗れると思い、まだ体力はあるなと感じました。

今日は体調に関してお聞きします。最近、体が重たいなと思う方。睡眠があまり取れないという方、ちょっと水不足という方。何となく体調不良だねと思っている方。

…池田さんは、まだ若いから体調は悪くならないだろうね。

(池田会員) 昨夜は飲みすぎまして…

友に関して論語の中で、益者三友とあります。自分にとって良い人 3 人、悪い人 3 人。

友達は良い人を選べとありますから、悪所通いをする人を友達にすると、その道にどんどん進んで行く。良いことを繰り返す人は、どんどん良い縁に繋がると思います。

日本人はなかなか難しいと思うことに、カンボジアでこんなことがありました。家内が「お土産を持っていかないの？」と言うので、私は考えていませんでしたがアドバイスがあったので、日本語学校の事務局に聞いてみました。そうしたら「お持ちいただきなくて結構です」と言われました。もう一方の学校は「鉛筆一本でも友情促進です。ボランティアの輪を広げましょう」と書いてありましたので、3色ペンを持っていきました。行くことを予定した二校の日本語学校の生徒数はあわせて180人ですので、180人分の3色ペンを自分のリュックサックに入れましたら、リュックはいっぱいになりました。

お土産を渡そうとしたら、希望小学校の先生に「せっかくなので一人ずつ渡してくれないか」と言われたので、生徒一人一人に手渡しで渡しました。山本小学校は「いらない」と言うだろうと思いつつ、山本会長に「お土産です」と言いましたら「どうも有難う」と言ってスッと受け取りました。

現場の人の考え方と上の人の考え方と食い違う。両方とも意見の疎通が出来ていないと、皆それぞれ自分の判断で聞かれたことに対して答えてしまう。ここら辺は、私の反省材料だと思いました。

三島中洲の講演会

二松学舎で三島中洲の講演会がありまして、比田井副理事長にお願いをしてテープを取ってもらいました。有難うございました。昨晚やっと聞きました。

外国の先生が講演をされていて思ったのは、外国人の目から見てみると、三島中洲というよりは、明治時代の世相や日本の漢文学者が透けて見えました。いくつかご紹介をいたします。

三島中洲が、あれだけの大学者なのに法律や経済のことも詳しいと話していましたが、これは私も分かります。大学の中では、三島中洲は漢学者ということが当たり前になっていますけれども、違う側面に裁判官や、学習塾を経営して儲かったり潰れそうになったりしていました。

講演会では、三島中洲は昔の漢文をやっている。新しい漢文をやらねばいけないというふうに話していましたが、新しい漢文とは何かと思って聞いていたら、日本人の漢文は、中国語で書いてあることを読むことが出来るし、書くことも出来る。だけれども口にすることは出来ない。それは古い漢文であって、これからの新しい漢文は話が出来なくてはいけません。会話をするものを新しい漢文と表現をしていました。私はこういう表現を初めて聞いたので面白く感じました。

講演をされた先生は素直に「私は中村正直と重野安繹と吉田松陰を研究していました。

三島中洲はお話をいただいたので一所懸命に調べて皆様にご報告をします」と、言っていました。つけ焼刃で喋りましたと最初に謝っているのですが、それでも人様の前で話すのだから、たいしたものだと思って聞きました。

三島中洲は体が弱くていじめられても仕返しが出来るタイプではありませんでしたが、水浴びを毎日三年間続けて自分の心を強くしていきました。表面的には穏やかで柔和で人と争わない性質が小さい頃にできました。小さい頃の環境というのは大きいですね。孟母三遷かもしれない。後年は、白髪のおじいさんで声を荒げるようなこともなく穏やかな人だった。弟子から見ても質実朴訥な人柄で、贅沢もしなかったと良いことばかりです。

三島中洲は裁判官でしたが、当時の政府の方針によって解雇させられてしまいました。収入がなくなってしまったので、自活の道を得るために学習塾をはじめた訳です。当時の士官学校の入試は、試験が漢文ですから、漢文の力がないと合格できないので、三島中洲が教える漢文塾に人が集まったとのこと。最初は12名の生徒を入塾させました。その時の裁判官退職金200円を使い、自宅に小さい建物を拵えました。それから生徒数が増えるので、講堂をつくり100人ぐらいの学生を一人で講義していました。そこら辺までは良いのですが、前にも申し上げましたように、塾を作ったら生徒がたくさん来る。教えるのが一人だけだから儲かったので息子をアメリカに留学にだしました。いずれにしても儲かって素直に喜んでいます。しかし明治政府の方針が変わったら生徒が激減して、残った弟子と肩を抱いて泣いたそうです。泣かれた弟子は発奮して弟子を集め、とりあえずは潰れずにすんだのが、今の二松学舎に繋がっています。

ここら辺のことは講演をされた先生はご存じなかった。でも大学者でありながら経営者であり実務官僚であり、そして裁判官である。これだけのことをやった素晴らしい人物と紹介していました。

愚得録

三島中洲の書いた「愚得録」というものがあります。三島中洲のことを書くときには「愚得録」を読みなさいと、私が教わった石川梅次郎先生が文章で書き残しています。

読もうと思いましたが、どこにあるのか分かりませんでした。それで北海道在住の松川先生にお会いして、「愚得録」はどこにあるかを聞きました。そうしたら「二松学舎にあるのではないですか」と言われました。

定宿にしているビジネスホテルの受付の子が中国人なので、愚得録を見せたら「これは読めます。中国語で書いてあります」と言います。「これは漢文というものです」と言ったら、「漢文は知りませんが、これは中国語です」と。ごごそうろうという感覚で読めるそうです。

私が日本人は偉いと思うことは、中国人が書いた文章を眺めて、レ点などを発見し文

章をいったりきたりして読む。文章を眺めることによって発明したのだから、凄いことです。中国語ではなくて日本語で読む。我々が今読んでいる読み方がそれです。

テーマ

木内信胤先生の認識（いつ日本の国がなくなっても、それは良からう）

一昨日に木内顧問にお会いまして、「ローマ法王は地球環境が悪化をして最後の審判が人類に到来する可能性が高いという内容のことを発表したそうです」と、聞きました。世界の指導者が驚愕をしたということです。

それを踏まえながら、一緒にベルリンへ行きましようかと誘われました。15人ほど人を集めてベルリンで会合を持ちたい。共通認識としては、人類は地球の天敵であるという認識の人達に声をかけたそうです。前にも似たような話があって、「私は言葉がわかりませんので」と言ったら、「私が通訳するから」と言ったので参加しました。最初は通訳をしてくれましたが、会議が進むにつれて議論に熱中しだして私をほったらかしです。ですので参加しても面白くないと思っておりますので、最初に断りました。ですが強く誘われましたので、今回は英語ができて地球環境にも危機感をおぼえている人に通訳を頼んで行くことにしました。

（会員）質問があるのですが、ローマ法王はそうおっしゃっているのですか。

ウィクリーワールドのコピーを貰いましたので、皆様にお返しします。それから一緒に『木内信胤語録』と『私の宗教観』こちらも回します。

紹介書籍

『木内信胤語録』三人会編 株式会社警備科学研究所

『私の宗教観』木内信胤著 プレジデント社

今までは崩壊がテーマでしたが、今お返しをしている紹介書籍は、木内先生が違った表現で仰っているものです。

「この世の中は仮の姿なんだから、仮の姿の世の中がなくなっても一向に困らない。仏教哲理を悟れば、ちっとも困らない。こういう心境になりなさい。いつ日本の国がなくなっても、それはよからうという気持ちがあれば、大事なことは考えられません。物欲に

こだわっている間は、大事なことは分からない」と、先生は言われています。

この背景にあるものは、先生の息子さんが亡くなる時に一晩中息子さんと話されたそうです。今ここで死んでも真っ暗けで何にも訳が分からなくなる世界ではない。今ある姿は仮の姿で、次の世界にいくと楽しい未来が待っている。今、肉体があって話が出来るのは仮の姿だと仏教哲理で話されたそうです。

自分の息子の命がベースにあって、そのときの体験が色濃く出ています。

今、私達は唯識学を勉強しています。唯識学では、今の姿は仮の姿であるということを、手を変え品を変えて説明してくれます。日本が消滅したとしても仮の社会ですから、生まれかわった時に、自分の次の世代にいくときには、また違う世界が待っていると思っていなければ、生きていられるものかねということです。

集約すると、亡くなった後に、あの世に君を待っている世界があると思ったほうが楽しかないかと言われてたら、そうだなと思います。亡くなったら真っ暗けで何も無い世界だと言われるよりは、未来があると言われるほうが楽しいと木内先生は分かりやすい言葉で説明をしてくださいました。

できるだけ自分の言葉で、一人称でお話することは、自分で消化していないと言えないことだと思います。自分が体験をしていないと言えない。

皆様がどこかでお話をなさる時には、一人称で体験話をするのが良いというのはここに帰着します。仏教哲理とか学問的裏づけがあり、そして分かりやすい言葉でお話すると良いと思います。

恒例の質問

・昨日一日、嘘は比較的つかなかった。

・昨日一日、良い日が比較的続いている。

良いものの記憶を大事にしておくが良いです。何もなかったなと思ったら良い記憶を思い出す。

・「有難う」と言い「有難う」と言われることが多かった。

相手が喜ぶとも思って何かをすることは、別にお金だけでもないだろうし、相手が満足をするかもしれない。常に相手が何で満足をするのかなと考えると会った瞬間に「有難う」と言葉が出る。人によっては「明日、有難うございます」と言う。明日していただくことに対して先に言うという可能性がある。

・健康法を実践していた方。

女性の体力は緩やかに落ちていくそうです。男性は急降下に落ちるそうです。実感としてはつるべ落としのように、どんどんと落ちる。

余計なことを話しますと、一番目に香りが分からなくなって、二番目に足の力が落ちて、すぐ電車に乗って席を探す。三番目に食べる力がなくなる。物を飲み込めなくなると危ないですね。あとは吐く息です。息を吐く力がなくなるとあの世が近いと思ってください。

・タベ寝る時に明日以降を過去形でイメージして眠れた方。

・自分磨きをした方。

自分磨きのことを陽明学では「事上磨錬」と言います。

論語の視点

今日の素読は良かったですね。だいぶ読まれたのだと思います。あとはイメージを作っ
て読むとさらに良いと思います。自分が孔子のつもりで読むとそういう雰囲気になります
し、お弟子さんのつもりで読むとそうなります。できれば孔子のつもりで読まれるとよい
でしょう。

【二一】子曰く、中行を得て之と与にせずんば、必ずや狂狷か。狂者は進みて取り、狷者は為さざる所有り。

今回は狂狷についての話です。けっこう孔子は過激です。

狂者は狂ったということではなくて、熱狂型の人間。情熱型の人間はちょっと知恵が足りなくても行動力があり、情熱を持ってどんどん動く人間が良い、それが狂。

狷というのは、ちょっと知恵が足りないけど、嘘はつかないから信用できるし、節度を守っている。ちょっと知恵が足りないけれど信用できる人が狷だから、偏っていて、やり過ぎだが、何もしないよりは、そちらのほうが良い。孔子は中庸の人間が良いが、そういう素晴らしい人がいないときは、狂狷が良い。

孔子はこういう人が良いと説明をしています。

【二二】子曰く、南人言えること有り。曰く、人にして恒無きは、以て巫医を作すべからずと。善いかな。その徳を恒にせずんば、或は之に差を承むと。子曰く、占わざるのみと。

南方の人の言葉で、ぶれない人生が良い。孔子がいうには、ぶれない・心変わりをしな
いということが良い。「巫医」は、巫女とか医者。ぶれている人間が巫女や医者を仕事に選
ぶと恥をかくからということです。

「占わざるのみ」は、占うまでには及ばない。常にコロコロと考え方が変わる人は未来
を占うということは出来ない。

時事評論

昨日の夕刊で目に入ったのは、IOT（モノのインターネット）と書いてあります。インタ
ーネットの技術を使ってサービスが色々と出来る。高齢者の自宅に食料品や日用品をド
ローンで運び、過疎地を効率的に走る送迎バスというサービス。7月3日の読売新聞に、お役
立ちロボット商機開拓とありました。

前にもお話しましたが、私の経営している老人ホームに小さなロボットが導入されてい
ます。お年寄り喜んでロボットの周りに集まります。お金はかかるけれども、年間でみ
れば高くは無いかと感じます。

国の税収が53兆9700億円で、25年度決算報告と比べると7兆円の増。14年度の国債
の新規発行も減額した。

7月4日の読売新聞で、デフォルトで社会が混乱した事例が載っています。アルゼンチン
がデフォルトを起こしたときには、各地の銀行が略奪や焼き討ちにあい数十人が死亡した。
また他の国がデフォルトになった時にどうなったかと具体的に書いてあります。

遺言講座という話が気になりました。遺言はこういうものを残せば控除の対象になりま
すと、税務署は色々なことを考えます。一見良さそうですが、税金を巻き上げようとする
のがありありと見えますので、お気をつけください。

今日はここ迄とします。有難うございました。